



## ピットフォール研究専門委員会からの挑戦状 Challenge from Pitfall Research Committee (PiRC)<sup>ビリック</sup>

### 第2弾【臨床背景・検査所見】

北海道大学病院 検査・輸血部  
中野恵一

ピットフォール研究専門委員会からの挑戦状「Challenge from Pitfall Research Committee (PiRC)」とは、提示した1つの症例に対して、実際に自分が遭遇した際、どのように対応するかを考えていただく企画である。PiRCは3部作で構成され、1回目に臨床背景・検査所見の提示、2回目に追加検査と解析結果の開示、3回目に解説の流れで行う。第2弾の1回目となる今回は臨床背景・検査所見を提示する。

#### 【臨床背景】

症例は男性。冠動脈にステントの留置歴があり、体動時に前胸部に「つかまれるような痛み」を自覚し、来院された。

#### 【検査所見】

心電図検査：軽度T波増高および軽度ST上昇

冠動脈造影検査：有意なステント内狭窄は認められない

血液検査：下記の通り

|             |      |
|-------------|------|
| TP (g/dL)   | 7.1  |
| Alb (g/dL)  | 4.1  |
| TB (mg/dL)  | 0.7  |
| AST (U/L)   | 22   |
| ALT (U/L)   | 14   |
| LD (U/L)    | 169  |
| AMY (U/L)   | 67   |
| CK (U/L)    | 132  |
| CK-MB (U/L) | 8    |
| UN (mg/dL)  | 17   |
| CRE (mg/dL) | 1.08 |

|              |        |
|--------------|--------|
| Ca (mg/dL)   | 9.3    |
| Na (mmol/L)  | 138    |
| K (mmol/L)   | 3.6    |
| Cl (mmol/L)  | 103    |
| CRP (mg/dL)  | 0.04   |
| cTnI (pg/mL) | 3369.3 |
| BNP (pg/mL)  | 99.1   |

|                            |      |
|----------------------------|------|
| WBC ( $10^3/\mu\text{L}$ ) | 5.6  |
| RBC ( $10^6/\mu\text{L}$ ) | 4.62 |
| Hb (g/dL)                  | 13.1 |
| Ht (%)                     | 39.5 |
| MCV (fL)                   | 85.5 |
| MCH (pg)                   | 28.4 |
| MCHC (g/dL)                | 33.2 |
| Plt ( $10^3/\mu\text{L}$ ) | 245  |
| PT (sec)                   | 11.7 |
| PT-INR (INR)               | 0.97 |
| APTT (sec)                 | 28.1 |
| Fib (mg/dL)                | 271  |

この症例における臨床像と検査所見の矛盾するところはあるか、矛盾があるとすれば推測される原因について考えてもらいたい。また、実際に本症例に遭遇した際にどのように対応するかも併せて考えていただきたい。

次号に続く。



ピットフォールとは、本来「落とし穴」を意味するが、臨床検査の領域では「患者の病態を反映しない不正確な検査結果」とされている。日常検査では、ピットフォール事例がどの施設でも時として発生し、実際に遭遇することがある。しかし、その対応方法が分からず、そのまま放置されていたり、部分的な解析にとどまったりして、原因特定まで至っていない事例が少なくないと考えられる。

このような問題に対応するため、2015年に日本臨床化学学会では「ピットフォール研究専門委員会」(以下、本委員会)が設置された。本委員会の主な目的は以下の4点である。

1. 過去に報告のあったピットフォール事例を広く集め共有すること。
2. ピットフォール事例を発見する、または見逃さないための方法を普及啓発すること。
3. 様々な症例の発掘と原因の解明を行い、病態解析や機器・試薬改良に繋げること。
4. ピットフォール事例の解析を行い、学会発表、論文発表をし、人材育成を行うこと。

本委員会は、大学病院、臨床検査技師養成大学、自動分析装置メーカー、試薬製造販売メーカーなど多岐にわたる分野のメンバーで構成されている。各委員がそれぞれの専門性を活かし、ピットフォールに関する研究とその対策に取り組んでいる。

本委員会では、ピットフォール事例に遭遇した際に活用できるよう「ピットフォール症例解析マニュアル」を公開している。また、誰でも相談できるよう「相談窓口」も開設している。さらに、文献報告されたピットフォール事例をまとめたピットフォール事例集を公開し、ピットフォール事例の共有と普及に努めている。具体的な活動については、次号で詳しく紹介する予定である。

## バナー広告掲載のお願い

本学会は、産官学が協調する学会で、学会員としては、医師、薬剤師、臨床検査技師などの医療従事者および臨床検査関連企業の社員が参加しています。そのため、情報の迅速な発信を目的としてホームページにバナー広告を掲載しております。より多くの企業の方にご利用いただきたくご検討をお願い致します。

バナー広告申込み：[https://jscc-jp.gr.jp/?page\\_id=631](https://jscc-jp.gr.jp/?page_id=631)



編集・発行：一般社団法人日本臨床化学会

104-0033 東京都中央区新川一丁目28番23号東京ダイヤビルディング5号館9階

(株)エム・シー・アイ内 日本臨床化学会事務局

TEL：03-6367-6225 FAX: 03-6367-6235 E-mail:jscc@mc-i.co.jp

<https://jscc-jp.gr.jp/>